
変質者

怜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

変質者

【Nコード】

N1754S

【作者名】

怜

【あらすじ】

下校中の高校生達が出会った変質者と言つ名のかわいそうな男。

(前書き)

やっしまいました…。

息詰まったから息抜きのつもりで書いたものです。

今までで最低の出来かもしれない…(汗)

それでも良いと言っ方お楽しみ下さい。

「…あり？」

皆さんごきげんよう！

俺の名前は青春真っ盛りの高校生赤羽修也あかはねしゅうやつて言います！

はい拍手！

…聞こえなかった気がするが放って置くぞ！

今の俺の状況を説明しよう！

今俺は高校からの下校中だ！

隣には小学校の頃からの友達山崎和樹やまざきかずきがいる。

そして俺達の前には…

「みなさんこんにちは僕ドラえもん…」

「言わせねえよおおおおお！！？」

危なかった…。

あの国民的アニメを侮辱する所だった…。

話を戻そう。

俺達の目の前には全身青タイツに顔を白く塗り、赤い鼻、二本髭。

そして何より腹のポケットが目立つ男がいた。

…変質者だ。

さっきはノリで突っ込んだけどどうしよう。

そして和樹。

あれを見て無表情なお前は凄いと思う。

警察に連絡した方が良いかな？

その方が良いよね。

ポケットから携帯を取り出して番号を押す。

ピ…ピ…ピ…。

「110番…っと。」

「もしもその少年？何をやっているんだい？」

うわ。話しかけてきやがった。

無視だ無視。

プルル…

コートが始まった瞬間。

「ぽぽーいいいい！！！！」

バキンッ！！

変質者が俺の携帯を叩き落とした。

「お前何やってんのおおお！！！！？」

当選地に落ちた俺の携帯はバラバラになるわけで。

「俺の携帯いいいい！！！！」

嘆く俺の肩にぽんと手を置く和樹。

「大丈夫。きつとお前の携帯は明日の朝お前の家の庭に新しく生えてくるよ。」

「生えて来ねーよ！！そして何だその爽やかな笑顔！！無駄にイラつく！！何！？お前予言者なの！！！！？」

一通り突っ込みを返して変質者を見ると…

「うぽ。中々良い新居じゃないか。」

「……………」

見なかった事にして良いですか？

何この人。頭だけ残して花壇に埋まってるよ？

ご乱心ですか？

今なら土下座が出来る気がする。見なかった事にして下さい。お願いします。

とつかどうやって埋まったの？まさか自分で？

こんなのでクオリティ発揮してんじゃねーよコノヤロー。

「どうすんのあれ？」

和樹…そこで俺にふるか。

「…水かけてもらいたいのかな？」

呟くと同時に俺は激しく後悔した。

和樹がどこからかジヨウ口を持ち出していた。

どうやって出したんだよお前。

しかもたっぷり水が入ってる。

こちらへんに水道がある所なんて無いんですけど。

和樹さああん！？

サアアア…

和樹が変質者に水をかけ始めた。

やっちまった…。

やっちまったよあいつ…。

でも何か変質者の顔がキラキラ輝き出したぞ。

気持ち悪さ倍増だぞ。

そして和樹が止めの一言。

「大きくな〜れ〜」

「ぽぽおおおいいいい！！！！」

「うわああああああああああ！！！！」
俺が絶叫する。

だって和樹が言った瞬間に花壇から飛び出して来たんだぜ。

覚醒したのか？

したんだな！！

「少年。中々良い叫びだったぞ。」

和樹が腕時計を見る中変質者が俺に言う。

「うつせーよ！！黙れよ！！気持ちわりーんだよ！！自分の星へ帰れ！！！！」

自分でもう何を言っているか分からない。

そんな俺に和樹が言った。

「修也。ごめん。俺ドラ もん始まるから帰るわ。」

……………は？

「じゃ。」

状況が飲み込めない俺に背を向ける和樹。

「待ちたまえ！少年！」

和樹の肩に変質者が手を置いて止める。

ゴッ！！

「ぶべっ！！」

突然変質者に和樹が回し蹴りを放つ。

そしてそのまま変質者に足払いを仕掛ける。

「グベッ！」

変な奇声をあげて地面に倒れる変質者。

和樹はその変質者に馬乗りになり殴る！殴る！

「ぼっぽうぎゃああああああ！！」

…そういえばこいつこの街で一番ケンカが強いんだった。

「帰ってドラ もん見るって言ってんだろ。邪魔してねーで仕事する人間のクズ。どうせこんな事してんなら社会の役に立てよ駄目二一ト」

…黒い。和樹がもの凄く黒い。

再び変質者と俺に背を向ける和樹。

変質者はピクピク痙攣している。

「…俺」

変質者が呟く。

「仕事見つけたら…！しっかりした人間になれるかなあ…？」

「…なれるさ。頑張れよ。」

変質者に励ましの言葉を言う。

何だかかわいそうだったからポケットに入っていたあめ玉を一つ変質者の横に置いて、俺も和樹を追いかけた。

〜数日後〜

…今ではあの変質者もちゃんと仕事を探しているらしい。

(後書き)

いや…うん…なんかすいません。

あの有名作品を出してしまってますいません。

訴えられない事を祈ります(汗)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1754s/>

変質者

2011年6月12日12時05分発行